

2. 海外のイカ類情報について（講演）

(1) 南大洋におけるイカ類の種類と分布（要旨）

奥谷 喬 司（国立科学博物館動物研究部）

1 問題の所在

南極大陸を囲んで南大西洋、インド洋南部、南太平洋をつなぐ南大洋といわれる海域のイカ類資源は、従来は鯨資源を支える栄養源としての関心のもとに英国・ソ連などによる研究が盛んであったが、近年は人間が直接利用できる可能性を秘めた潜在蛋白資源としての関心が高まって来た。わが国によるニュージーランドスルメイカ *Notodarus sloani* (GRAY) の商業漁業開発は、このような世界の関心に光明を与えた。

南緯40度以南の海域には、一説によると(VOSS)凡そ50万頭のマッコウクジラがいて、これが年々5,000万トンの頭足類を消費しているという。しかし、そのような個体群量の評価はかなり区々で、他の説(CROXALL及びLAWS)によると海鳥類が590~790万トン、海獣類が507~555万トン、ヒゲ鯨類が44万トン、歯鯨類が460万トンの頭足類を消費するという評価もある。

しかし、商業漁獲先行のわが国としては、この海域全体としての科学調査は行っておらず、いわば最後の処女地として考えられる南大洋のイカ資源に関する情報に乏しいため、ここでは各国の業績をもとにして、南大洋の有望イカ資源を形作る種類とそれらの分布について略述する。

2 種類

南緯40度以南に分布することが知られているイカ類を文献中から拾った(表1)。但し、外套長5cmに満たない種や、ユウレイイカ科のように体が非常に軟弱で到底利用に耐え得ると思えないような種は予め省いたので、これが全種というわけではないが、南大洋に分布するイカが意外に種数が多いことが判る。

3 分布

これら南大洋に生息するイカは寒帯性のもに限らず、温帯性種の分布の南限が、この水域に及ぶものなど種々の要素の組み合わせである。各主要な要素は次のとおり。

- (A) 冷水種（環南極圏種）〔例〕：ミナミニユウドウイカ *Moroteuthis ingens* , ミナミスルメイカ *Todarodes filippovae* .
- (B) 温帯広域分布種〔例〕：ホンツメイカ *Onychoteuthis banksii* , トビイカ *Symplectoteuthis oualaniensis* , アカイカ *Ommastrephes bartrami* .
- (C) 南西太平洋種〔例〕：ニュージーランドスルメイカ *Notodarus sloani* .
- (D) 南東太平洋種〔例〕：アメリカオオアカイカ *Dosidicus gigas* .
- (E) 南西大西洋種〔例〕：パタゴニアヤリイカ *Loligo patagonica* , アルゼンチンイレックス *Illex argentinus* .

表1 南大洋（南緯40°以南）産有用イカ類一覽*

		外套長(cm)
Lolignidae	ジンドウイカ科	
	<i>Loligo patagonica</i>	S. Atl., Patagonian Shelf, Subantarctic 6.5
Gonatidae	テカギイカ科	
	<i>Gonatus antarcticus</i>	Subantarctic, Antarctic, circumpolar 20
Octopoteuthidae	ヤツデイカ科	
	<i>Octopoteuthis sicula</i>	S. Atl. 14
	<i>Taningia danae</i>	S. Atl., Subantarctic 100
Onychoteuthidae	ツメイカ科	
	<i>Onychoteuthis banksii</i>	S. Atl., Subantarctic 25
	<i>Moroteuthis ingens</i>	Antarctic, circumpolar 100
	<i>Moroteuthis robsoni</i>	S. Atl., Subantarctic 50
	<i>Moroteuthis knipovitschi</i>	Scotia Sea 25
	<i>Kondakovia longimana</i>	Scotia Sea 25
Brachioteuthidae	クビナガイカ科	
	<i>Brachioteuthis picta</i>	Subantarctic, Antarctic 14
Lychoteuthidae		
	<i>Oregoniateuthis lorigera</i>	S. Atl. 18
Histioteuthidae	クラゲイカ科	
	<i>Histioteuthis atlantica</i>	Subantarctic, Atl., Pac. 10
	<i>Histioteuthis eltaniae</i>	Subantarctic, Atl., Pac. 7
	<i>Histioteuthis macrohista</i>	Subantarctic, circumpolar 7
	<i>Histioteuthis miranda</i>	S. Pac., Subantarctic 20
	<i>Histioteuthis bonelli</i>	S. Atl., S. Pac. 33
Bathyteuthidae		
	<i>Bathyteuthis abyssicola</i>	Subantarctic, Antarctic 7
Psychroteuthidae		
	<i>Psychroteuthis gracilis</i>	Antarctic 15
Architeuthidae	ダイオウイカ科	
	<i>Architeuthis</i> sp.	Subantarctic, S. Atl., S. Ind. 500
Ommastrephidae	アカイカ科	
	<i>Nototodarus sloani</i>	N. Z. 40
	<i>Nototodarus gouldi</i>	S. Australia 40
	<i>Todarodes sagittatus</i>	Subantarctic, S. Atl., S. Ind. 50
	<i>Todarodes filippovae</i>	Subantarctic, circumpolar 50
	<i>Illex argentinus</i>	S. Atl., Patagonian Shelf 30
	<i>Martilia haydesi</i>	S. Pac. 30
	<i>Symplectoteuthis oualaniensis</i>	S. Pac., S. Ind. 40
	<i>Dosidicus gigas</i>	S. Pac. 150
	<i>Ommastrephes pteropus</i>	S. Atl. 40
	<i>Ommastrephes bartrami</i>	S. Pac. 40
Cranchiidae	サメハダホウズキイカ科	
	<i>Mesonychoteuthis hamiltoni</i>	S. Atl., Antarctic 200
	<i>Galiteuthis glacilis</i>	Antarctic, circumpolar 100
	<i>Galiteuthis aspera</i>	Scotia Sea 30
	<i>Taonius pavo</i>	S. Atl. 30

* 主要出典：FILIPPOVA 1969, 1972, VOVK他 1975, ROPER 1976, CLARKE 1966, 1977

(F) 南東大西洋種〔例〕：アフリカニュードウイカ *Moroteuthis robsoni*, ヨーロッパスルメイカ *Todarodes sagittatus*.

以上のほか、南極海のごく一部しか知られていない種があるが、それらは今後の調査によって分布範囲が拡大する可能性が多い。

分布量に関しては、前述のように非常に幅があって定説は今のところない。個体群量評価の手段としては、捕食者の胃内容物やネット採集物によるこれまでの方法による組成をみると科組成で見てもいちぢるしい相違がある(表2)(CLARKE)。

表2 採集方法による南大洋イカ類の科別組成の相違(個体数)

科	胃 内 容 物		ネ ッ ト
	マッコウクジラ	ウェッデルアザラシ	
ツメイカ科	54 %	32 %	—
サメハダホウズキイカ科	23 %	—	25 %
クラゲイカ科	11 %	—	—
(八腕類)	—	(35 %)	—
<i>Bathyteuthidae</i>	—	—	42 %
クビナガイカ科	—	—	13 %

このうちマッコウクジラの胃内容物に出現するツメイカが重量にして *Kondakovia longimana* (ニュードウイカ類の1種)が17%, 外套長2mに達する大型のサメハダホウズキイカ科の1種 *Mesonychoteuthis hamiltoni* が76%を占めるという資料(CLARKE)もある。

このように種の同定、個体群量の評価、その他の生物学的情報等が材料・方法の上からまだ非常に不十分な南大洋のイカ類資源は、今後それにあつた採集器具、測機等の考案改良に加えて適正な調査プログラムに基づいて研究されなければならないであろう。